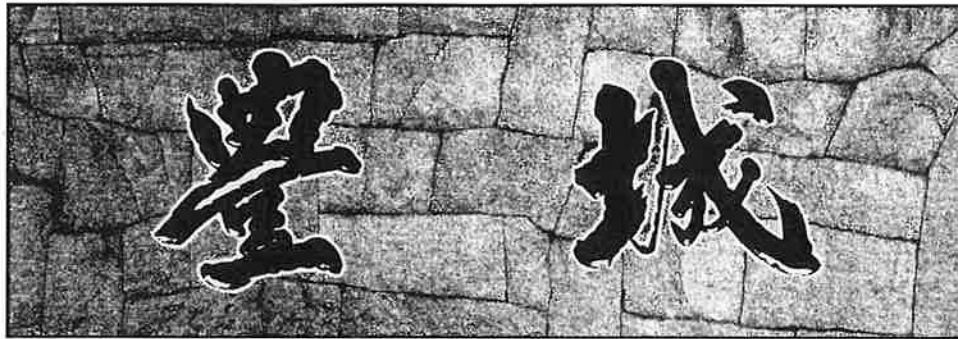




学校だより

第 50 号

豊橋市立豊城中学校

〒440-0801

豊橋市今橋町2番地の1

TEL 0532-54-1275

令和7年3月4日発行

E-mail hojo-j@toyohashi.ed.jp



自らを客観視し、 最適な学びを自己決定できる生徒の育成

一日一日と少しずつ卒業が近づいています。
私の学校生活は「宝物」と呼べるほど大切な時間でした。学級、部活、生徒会活動、行事などを通して、私はたくさんの人に出会い、たくさんのことを経験しました。これが「宝物」と思えるのは、一つが私を成長させてくれた経験だったからです。特に合唱コンクールでは、よい合唱を目ざして、クラスの仲間や先生と何時間も話し合いました。その中で、笑いあったり、時には言い争いになったりもしました。それでも楽しく終わりを迎えられるのは

宝物

前期生徒会長 松岡 莉桜

仲間の支えがあったからだと思っています。どんなときも私の周りにいてくれた仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

中学校生活ではうまくいったことと同じ数だけのうまくいかなかったこともありました。でもこの経験をしたらこそ得られたものがあると学びました。私が中学校で過ごしてきた三年間という時間は私の人生のページに過ぎないかもしれません。それでも私にとってこのページは、間違いなく、かけがえない「宝物」です。

自ら動き出そう

豊城中学校校長 河合 成始

豊城中では「自律人を育成する」教育を展開しています。つまりさまざまな実体験を通して、多種多様な考え等に関わる中で自分の考えを再構築し、行動し始める人の育成を目指しています。

教育実践の一つとして、中間テストを廃止して単元テストを実施しています。生徒が日々の授業に臨む集中力を高め、自ら学習に立ち向かい学び方を調整する力を身につけることを目的としています。一方で私たち教師は、テスト分析から指導方法を見つめ直し、「チーム豊城」として授業力向上に努めています。

ます。その成果の端として、「向上心や受容・共感」などの非認知能力の理解が進み、自らを客観視できる生徒や授業内でうなずいたり相槌を打ったりして自己表現する生徒が増えてきています。

人生の学び舎である学校では、生徒がやらされる諸活動から脱却する必要があります。そして、自ら動き出そうとする意識の土壌を掘り起こし、一人一人の成長に必要な最小限の養分を施す場所にならなければなりません。主役である生徒には夢や目標に向かって自分らしく歩み続けてほしいと願っています。

自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成



「え、なんで?なんで?」

「そっか、そういうことか!」

この言葉を聞くと思わず笑みがこぼれます。子どもたちが夢中になって考え追究した結果のつぶやきです。

二年生の理科の化学変化の授業で、カルメ焼きをつくりました。ドロドロになり、なかなか膨らまない砂糖のかたまりを目の当たりにし、絶望する子どもたち。膨らんだまま固まるサクサクのカルメ焼きをつくるためにはどうすればよいのかと追究がスタートしました。「火を止める温度だろうか」、「混ぜ方に問題があるのかな」という疑問をもとに、仮説を立て実験を繰り返して、失敗し、また考えて…。そこで仲間と意見交流です。意見交流後に、ある子が「そっか、砂糖が固まる温度も考えればいいのか」とつぶやきました。熱分解の温度にこだわっていた生徒が、仲間との関わり合いにより、自分の考えを見つめ直し、新たな視点を見いだした瞬間でした。「そっか」。この言葉に、その生徒が自分でとことん考え、とことん追究したからこそ得られた納得解を感じました。

研究を行っています。これからの未来を生きる子どもたちは、予期せぬ事態に対しても、多くの情報から必要だと考えられるものを自分で選択し、何をすべきかを自分で決定することが求められます。また独りよがりにならないためには、関わり合いが必要です。仲間や教師と議論したり、文献や体験から得た学びをもとに考えたりするなど、世界(ひと)の(こと)と関わり、改めて自分の考えを見つめ直すことで、最適な学びを導き出します。そこで本校では、三つのでだてを講じています。二つ目は、子ども自身が成長を実感できる単元(成長単元)の実践です。授業に主体的に取り組み、自らの学びを実感できるような単元を構想します。二つ目は、自らを客観的に捉えるための振り返りです。授業の振り返りでは、非認知能力を意識して振り返ることで、自分の学びを客観的に見つめ理解を深めます。そして、三つ目は、関係づくりやコミュニケーション力向上を目的としたコミュニケーションタイム(コミケ)です。コミケで培ったコミュニケーション力を生かしながら、世界(ひと)の(こと)と関わり合う教育活動に取り組みむことで、未来を生きる力を育んでいきます。

豊城中学校の学びのついで

豊城中学校では、自分に必要な学習を生徒自身が決定し主体的に取り組むことを目指しています。1・2年の数学と全学年の英語では、目的別コース選択授業を導入しています。単元やユニットのまとまりごとに「応用的な学習を中心に学びたい」や「基礎的な内容を徹底的に学びたい」などのニーズに合わせて、コースを自分で選択できるようにになっています。課題等

「にしているように、定期テストより短い間隔で学習の定着度を確認できる単元テストを継続して行っています。今後、教師が学習すべきことを決めるのではなく、生徒一人一人が自分に必要な学習を自己決定できるように、支援をしていきます。



後期生徒会活動を振り返って

光り輝け

後期生徒会長 石原 梨子

学校への思いがあふれた選挙戦から始まった後期の生徒会活動。前期の先輩方の思いを受け継ぎ、各自が学校をよりよくするために掲げた公約の実現に向けて力を尽くしました。意見箱の電子化、他学年や地域の方との交流、給食時の隊形の見直しなどに取り組みできました。また、全校にアンケートを行って、生徒会活動のヒントにすることで、生徒会役員だけではなく、全校生徒が豊城中をよりよくしようという思いをもつことができたと感じています。

今年度もあと少しですが、生徒ひとりひとりが、光り輝き続けられるように、役員でチーム一丸となり活動していきます。

生徒たちは、自分で必要なことを決めて時間を過ごします。そこで大切にしていることは「自己決定」「自主自律」です。安心・安全な学校を目指し、個別に違うニーズに対応できる「居場所」としての役割を担い、一人一人に寄り添ったあたたかい運営を心がけています。使用方法については、いつでもご相談ください。



生徒たちの多様な学校への関わり方に対応するため、北館一階和室に、グリーンルームを設置しています。毎時間担当教員がサポートを行っています。

令和
6年度

学校評価について

〈ねらい〉

生徒がよりよい教育活動を受けられることをめざし、「学校をよりよくする」ために、学校、保護者、地域の方の協力により学校評価を行う。

〈方 法〉

- ①生徒・教職員を対象に年2回、保護者には年1回、同じ項目のアンケートを実施
- ②保護者には年2回、学校行事や学年の活動に関する記述式アンケートを実施
- ③アンケートを受けての教職員による自己評価
- ④「明日の豊城を創る会」による学校関係者評価

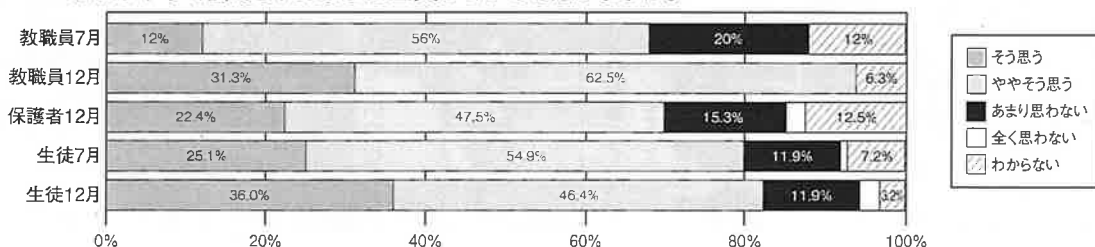
アンケート実施時期 【7月】7月8日～7月12日【12月】12月2日～12月6日

アンケート 結果より

※グラフの上の質問は生徒向けアンケートの表現です。
※保護者は選択肢の「わからない」を「判断できない」として回答しています。

Q2

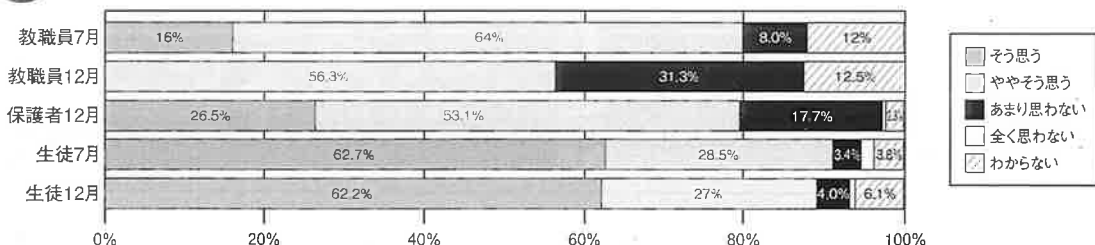
あなたは、人前や授業で発表するとき、発表の資料などを作成するときに、聞く人や見る人にわかりやすく伝えられるように工夫していると思いますか。



7月の調査と同様に8割以上の生徒が、他者意識をもって自分の考えを伝えようとしています。今後も自分の考えをもち、他者にわかりやすく伝えたいと思える支援や学校生活・コミュニケーションタイムを通して話しやすい関係づくりを更に進めていきます。

Q10

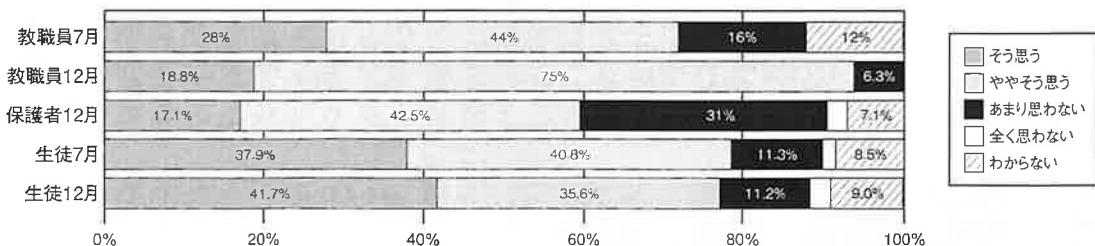
あなたは、SNSの利便性だけでなく、問題点や危険性についても理解していますか。



SNSの使い方を間違ってしまう、思わぬトラブルに発展するケースが身近にあることは事実です。学校では生徒たちに事例を挙げて話をしたり、危険性を学習できる機会を設けたりしています。家庭でもルールづくりや使用方法の再確認をお願いします。

Q14

あなたは物事に興味や関心を抱き、今年の4月頃と比べて「もう少し深く知りたい」という気持ちが強くなってきていると思いますか。



「そう思う」の回答が増加する一方で、「全く思わない」の回答も増加しています。昨年度の調査でも同じ変化が7月から12月の間で見られました。興味をもった生徒には、学びの好奇心を刺激するようなヒントを、興味をもていない生徒には、基本的な内容が理解できるような支援をしていくように努めていきます。

〈アンケート結果について〉

本年度の学校評価について、アンケート結果をまとめ、ホームページに掲載いたしました。ぜひご覧ください。

学校
ホームページ
QRコード



学年だより

1年 自律・対話・判断

真新しい制服に袖を通し、緊張した面持ちで参加した入学式から、もうすぐで1年が経とうとしています。入学式では「中学校は楽しい所ではありません。楽しくする所です。」と話しました。自分の生活は、他の誰かが楽しくしてくれるものではなく、自分で楽しいものに変えていく。そんな生きるうえでの力強さをもてほしいとの思いでした。5月に行われた体育祭では「充実した行事にするには、体育祭にどのように取り組んだらよ

いのか」を各学級で考えました。その結果、優勝した学級だけでなく、全ての学級で、体育祭を満了した行事として終えることができていました。そして「自律・対話・判断」を学年目標に掲げ、自分たちのことは、自分たちで判断し、対話を繰り返しながら決定し、行動できる自律人になることを目指しました。

中学校生活にも慣れ、やや生活に乱れが出てきた12月。運営委員の発案で、生活を見直すための取り組みを行いました。自分たちの様子を客観視し、改善すべきことは何か、どうすればもっとよくなるかを話し合い、生活改善キャンペーンに取り組みしました。実際に、生活の様子に改善が見られ、授業への取り組みにもよい変化がみられました。

現在、二年生の三学期は二年生の0学期として、二年生を見据えて生活しています。先輩として、後輩に手本を示すことのできる姿へと成長していくことを期待します。



成功したときも、うまくいかないときも、前向きな気持ちで、なりたい自分を模索していつてほしいと願いながら、子どもたちと伴走してきました。

自分の個性やよさをどうしたら生かせるかと模索し、自分磨きに励む姿からは、社会や大人への道に一步歩向かっていることがうかがえました。

職場体験学習では、その事業所で学ぶ目的を明確にし、自分で事業所に依頼をしました。何度も断られた末にようやく体験先が決まった子もいました。そんな子で

あつても、学習のまとめ報告会では、事業所での仕事内容の紹介にとどまることなく、これから自分に必要なこと、社会で求められていることについて考察し、堂々とした姿でプレゼンテーションしました。

後期からは、三年生から生徒会活動のリーダーを引き継ぎ、子どもたちの考えで学校、学年での生活がよりよいものになるように、努力する姿が見られるようになりました。また、体育祭や文化祭、合唱コンクール、学年レクなどの実行委員として、自分のよさや個性を発揮できる場所、ここならがんばれると思える場所を見つけて活躍する子どもたちも多くなってきました。

卒業まであと二年あまり。これからの行動が未来につながるようになり、なりたい自分、大好きな自分を三年生になっても追い求めていってほしいと思います。



3年 flowers

学年目標「flowers」には、一人一人個性豊かな「花」を咲かせ、輝きたいという思いと、最初の文字「f」にはフォルテ「強く前進する、強く育つていきたい」という意味が込められていました。この学年目標のもと、中学校最後の二年を大切に過ごしてきた三年生。卒業期を迎えた今、学校生活や行事を振り返ると、三年間の成長がとても大きく感じられます。

何よりも楽しみにしていた修学旅行。ゲームもスマホもない三日間。旅行を終えた生徒たちからは「もう一回修学旅行に行きたい」と、嬉しそうに思い出を語る声が聞こえてきました。スマホのない不便さの中でも、友達と面と向かって関わることもそのものが楽しい。一緒に時間を過ごすことが相手を知るきっかけになる。絆が深まる。人間同士だから、修学旅行だからこそ学び、味わえることができた強く感じています。

そしてこの学年を語る上でどうしても外せない行事が合唱コンクールです。一年時のコンクールで初めて歌声を聴いたとき、二年後、そして卒業式での合唱を強く意識したことを鮮明に覚えています。練習期間が始まると、どこを歩いても歌声が聴こえてきました。自分たちで改善点を話し合い、練習を進めていく様子。コンクールに向けて熱量を増していく日々。最

後の合唱コンクールでは、ステージに立つ頼もしくなった姿と、圧巻の歌声に感動し、自然と涙が溢れ出しました。

三年間、何でも自分たちで考え、自分たちですすめ、自分たち自身で失敗も成功も経験してきた三年生の皆さんへ。豊城中で経験したこと、学んだことを大切にしてください。きつとこの先も役に立つことがあります。皆さんは立派な花となつて豊城中を去っていくます。これからも自分らしく、力強く、過(こ)していきましょう。

そして何より…「愛される人」に。

